

## 舞鶴湾下佐波賀沖の凹地の確認について －「浮島丸」の沈没跡地か－

海上保安学校では海洋科学課程の学生に海上保安庁が刊行している海図作成に必要な測量技術を習得させることを目的として第八管区海上保安本部職員の指導のもと、毎年9月から10月にかけて舞鶴湾内で測量実習を行っています。

今年も9月2日から10月28日まで実施したところ、終戦直後の昭和20年8月24日、舞鶴湾下佐波賀沖で沈没し多数の犠牲者を出した海軍特設運送船「浮島丸」の沈没跡地付近に沈没の痕跡を示すとみられる船体跡が残っていることが確認できました。

この痕跡は下佐波賀沖の南約500メートル、水深約17メートルの平坦な海底に深さ2～3メートルの凹地が東西方向に長さ78メートル、幅25メートルにわたり確認できたもので、凹地の南側には約2メートルの高まりも見られます。

「浮島丸」は建造時の資料では、船体長107メートル、幅15.7メートル、高さ9.75メートルの大きさであり、爆発により船体は中央部で2つに折れて沈没していたことが船体引き揚げ作業で確認されています。

今も残る凹地の中央付近には高まりが見られ、二つに折れた船体の形状と一致しているようにも見えます。

沈没地付近の海底は粘性の高い泥で覆われ、付近の海潮流が弱いこともあり、55年以上の歳月が経過した現在でも埋没せず凹地地形として残ったものと考えられます。(付図1及び2 参照)

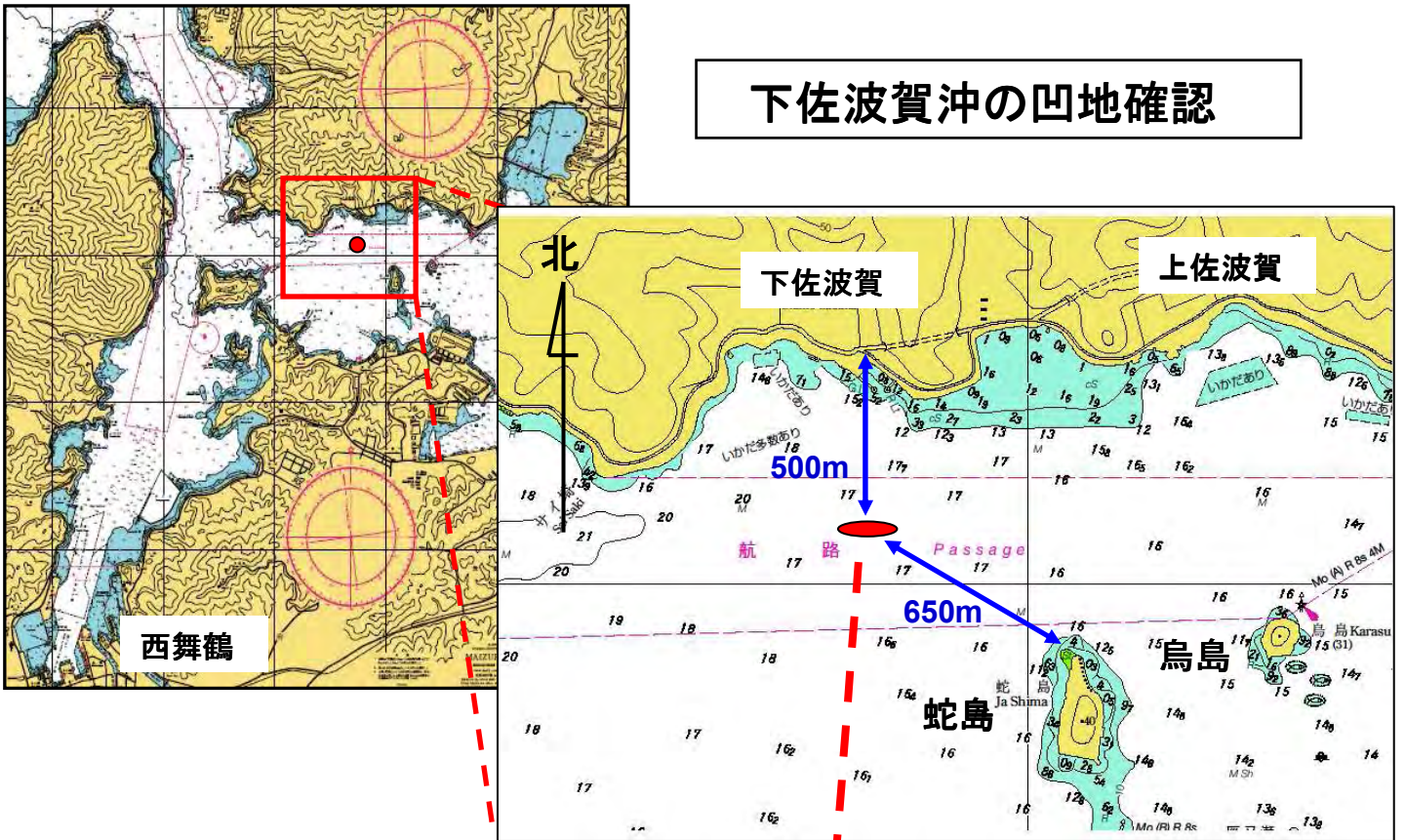
### 《参考》

海軍特設運送船「浮島丸」は、昭和20年8月22日、青森県大湊港で3700名余りの朝鮮人労働者とその家族を乗せ韓国釜山港へ向け出港しました。8月24日17時20分頃、舞鶴寄港のため下佐波賀沖を航行中、水雷に触雷し沈没（舞鶴鎮守府舞鶴防備隊報告）し、549名の犠牲者を出しました。

その後、「浮島丸」は昭和25年に船体後部を昭和29年には船体前部が引き揚げられ解体されました。

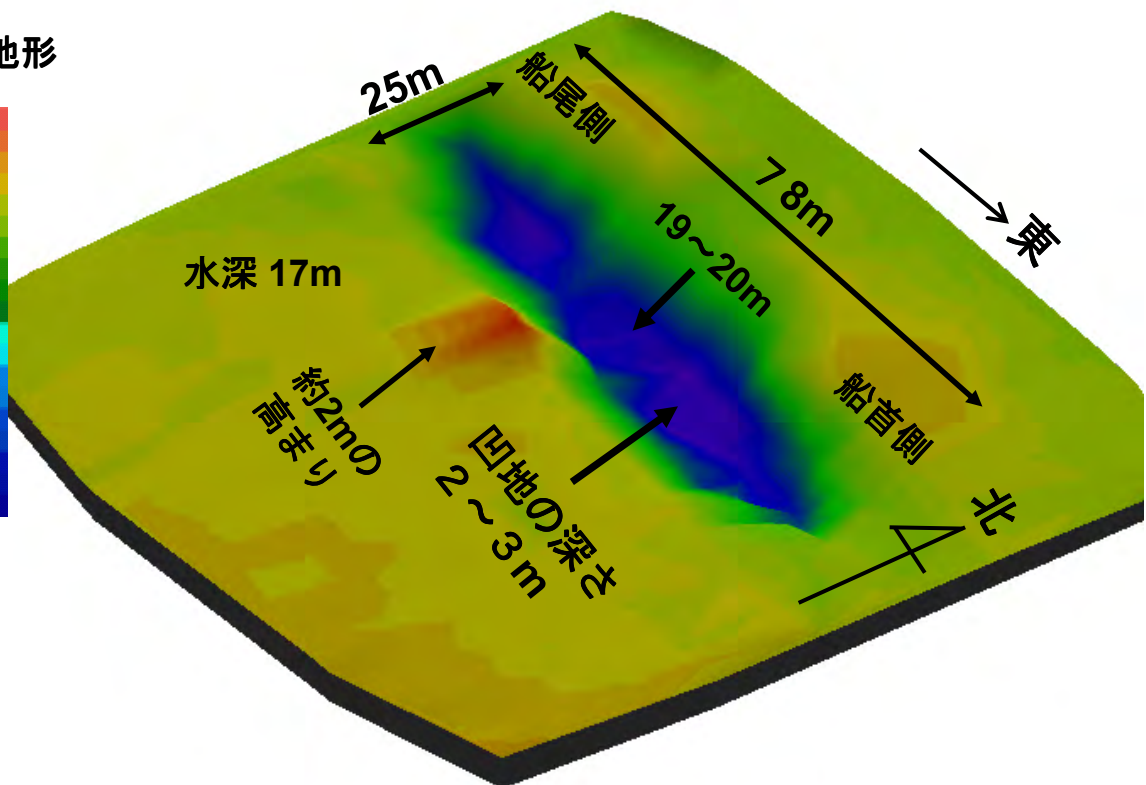
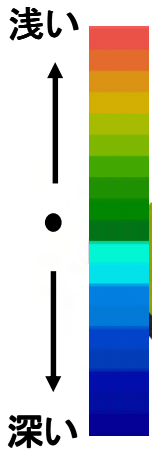
問合せ先 第八管区海上保安本部海洋情報部 海洋調査課長 熊川 浩一 TEL 0773-75-7373(直通)
---

下佐波賀沖の凹地確認



凹地の海底地形

海底地形



## 「浮島丸」



- ・竣工 1937年3月15日
- ・総トン数 4,371トン
- ・主要寸法 (全長×幅×高さ)  
107.0×15.7×9.75m
- ・速力 17.4ノット